

レファレンス事例一覧

質問	調査過程	回答資料
<p>渡辺錠太郎とはどんな人ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・渡辺錠太郎は小牧出身の軍人で、二・二六事件で襲撃され死亡した人物である。 ・①「小牧市史 本文編」には、渡辺錠太郎の生涯についてまとめられており、彼の経歴を確認することができる。 ・②は生まれや生い立ち、青年時代から軍人になってからの活躍ぶりなどが書かれている。(昔ながらの言い回しで書かれているので、読みなれていない人や子どもには難しい本だと思われる) ・③「駒来」29～31号、33号において、百瀬正昭氏が「小牧で生れた渡辺錠太郎将軍」というタイトルで連載記事を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧市史 本文編(AK261/コ) p736～738 ②郷土の偉人 渡辺錠太郎 (AK289/ワジ) ③駒来(製本版)(AK908/コ) 29～31号(1975年)、33号(1976年)
<p>「稲置街道」(いなぎかいどう)について知りたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「稲置街道」とは木曾街道の別名で、現在の名古屋市北区清水から味鋺の渡しで庄内川を越え、春日井、小牧を抜けて、楽田(犬山市)の追分から五郎丸を通り、犬山城に向かう道のことを言った。 ・①には、稲置街道の歴史と全ルートマップ、エリアマップが記載されている。 ・②は古道沿いの史跡等の現在の様子を写したカラー写真集であり、稲置街道の写真も掲載されている。 ・稲置街道の別名である木曾街道の資料を探したところ、③を見つける。この本には、区間ごとの説明、史跡、白黒写真、地図が掲載されている。 ・④、⑤は近隣の街道についての資料である。街道別に説明がされており、稲置街道についても述べられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①稲置街道散策まっぷ(A295/キ) ②古道 277km と堀川の今 (A682/エ) ③木曾街道を歩く(AK682/カ) ④愛知の歴史街道(A682/ナ) ⑤尾張の街道(A682/ア)

<p>小牧山城はどんな城だったか知りたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①は小牧山城の遺構や歴史など、②は昭和以降の小牧山についての資料である。 ・③は信長、光秀、秀吉の城下町についての資料であり、小牧山城について近年の発掘調査の結果も踏まえて記述されている。 ・④は小牧山城を含め、信長が築いた城に焦点を当てた資料である。 ・棚のブラウジングで見つけた⑤は、近年の発掘調査の結果も踏まえた資料となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧山城(小牧叢書 16) (AK261/コ) ②続小牧山城(小牧叢書 17) (AK261/コ) ③信長の城下町 (AK290/ニ) ④信長の城 (210.47/オ) ⑤織田信長と小牧 (AK261/コ)
<p>小牧で一番古い小学校はどこですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の設置は、明治 5 年(1872)の「学制」の公布に始まるとされている。 ・小牧市での状況は①に明治 6 年当時 10 校が列挙されているが、設置年月などの記載がなく、どこが一番古いのか判明しない。 ・また②には明治 7 年の学校表があり、ここには現在の小牧市内の小学校として7校が掲載されているが、ここにも正確な設置年月は記載がない。 ・これらの学校名を手がかりに、各小学校の HP を調べてみると、それぞれ前身となる「義校」(ぎこう)が明治5年から6年にかけて設置されている。調査の結果、篠岡小学校は明治42年の設立だが、その前身である「福明学校」、「篠岡学校」が明治5年に設置されているので、「義校」も含めるならば一番古い学校となるが、詳細はさらに調査が必要と思われる。 ・ここでは、現在の小学校のうちではという意味で、小牧市の公刊された資料③に、現在の小学校の設置年の記載があるため、それを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧市史 本文編 (AK261/コマ) p562 ②愛知県教育史第 3 巻 (A372/アイ/-3) p659 ③市政概要 平成 25 年版 (AK318/コ) p90
<p>小牧山の歴史について知りたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①は小牧山の歴史が書かれている。旧石器時代、信長の時代、家康の時代、江戸時代、小牧町に寄贈された記載や、散策コースなども書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧山城(小牧叢書 16) (AK261/コ)

	<ul style="list-style-type: none"> ・②は、①の続編で昭和初期から平成にかけて、小牧山の記録が書かれている。「写真で綴る小牧山」(p77～83)では、大正10年の小牧山の様子や、昭和・平成となり、田畑が少なくなり、宅地化されていく様子がわかる写真が収録されている。 ・③には織田信長と小牧山の関連が書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ②続小牧山城 (小牧叢書 17) (AK261/コ) ③織田信長と小牧 (AK261/コ)p8～30
<p>「小牧・長久手の戦い」の史跡はありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①、②には、小牧山周辺に作られた砦跡が白黒写真付きで紹介されている。①には地図も掲載されている。 ・③、④には、小牧山、長久手古戦場の史跡が白黒写真付きで紹介されている。③には地図も掲載されている。 ・⑤には、小牧山周辺に作られた砦跡がカラー写真付きで紹介され、交通機関最寄駅等一覧、地図なども掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧山城 (小牧叢書 16) (AK261/コ) ②小牧の文化財 第20集 (小牧の歴史) (AK709/コ/-20) ③図説日本の史跡 7(291/ズ/8-7)p173、175 ④愛知県史別編 文化財 1 (A201/ア)p420～426「古戦場」 ⑤小牧・長久手の合戦ガイドマップ (AK299/コ)
<p>小牧山の「創垂館」について、建設当時の資料はありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「創垂館」は明治22年に愛知県によって建設されたものである。 ・まず、古い写真集を探すと①がある。 ・建設関係資料が愛知県図書館に記録が残っていないか、メールでレファレンスを依頼した。 ・後日回答があり、当時の資料はないが、明治23年6月に園遊会が開かれたという新聞記事②の情報を得る。 ・当館の資料を再度調査すると、③の中に平面の見取り図を偶然発見した。 ・現在地に青年の家として移築された経過は④に書かれていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①尾北郷土資料写真集 (AK261/イタ) ②金城新報 明治23年6月21日～24日 (愛知県図書館所蔵) ③小牧山関係書類抄 (AK261/シ) ④創垂館 (AK709/ソ)

	<p>・園遊会は徳川家と旧尾張藩関係者によって開催された。当時の小牧山は厳重な管理下にあったようだ。青年の家として移築の際に手直しが行われたこともわかった。</p>	
<p>小牧の郷土料理について知りたい。</p>	<p>・①や②によると、ご馳走として「サンマ飯」や「にんじん飯」などを食べていたことがわかる。また、ハレの日の食事として、正月の鏡餅、ノシ餅、弘法様の日のハナクソ餅、お盆のアンコロ餅などお祝い事があるとお餅を食べていたようだ。ここに記載した以外にも色々食べていたことが分かる。</p> <p>・③には、名古屋コーチンを作成するまでの経緯が、④にも名古屋コーチンについての記載があり、いずれも小牧市発祥であると書かれている。</p> <p>・⑤及び⑥に愛知県の郷土料理である「ひきずり」について記載あり。「ひきずり」は、名古屋コーチンなどの鶏肉を使ったすき焼きのことである。これらの資料から、昔の小牧の人たちも、「ひきずり」を食べていたことが推察できる。</p>	<p>①小牧市史 本文編(AK261/コマ)p653～660、p691～706</p> <p>②小牧の民俗(小牧叢書7)(AK380/コマ)</p> <p>③名古屋コーチン作出物語(AK646/イ)</p> <p>④小牧の産業史話(小牧叢書14)(AK602/コマ)p3～10</p> <p>⑤小牧発祥！！名古屋コーチン(AK596/コマ)</p> <p>⑥「食」で地域探検5(肉の郷土料理)(383)p10、11</p>
<p>「田縣神社」のお祭りについて調べたい。</p>	<p>・①は田縣神社についてまとめられた資料であり、続編として「田縣の宮見聞録続巻」、「田縣の宮見聞録続々巻」がある。</p> <p>・②には、田縣神社の豊年祭について説明が記載されている。</p> <p>・③は大正時代の資料の復刻版であり、田縣神社についての記載がある。</p> <p>・過去のレファレンス回答の記録より、④、⑤の資料を確認。④は味岡地区の神社仏閣についての資料である。⑤は尾張地方の祭りについての資料</p>	<p>①田縣の宮見聞録(AK176/ニ/3-1)</p> <p>②小牧の神社(AK175/コマ)p71</p> <p>③東春日井郡誌(A261/ヒ)p647～651</p> <p>④味岡庄史資料集(全五冊其</p>

	であり、豊年祭のカラー写真と豊年祭についての説明がある。	四) (AK261/ニ/5-4) ⑤尾張のまつり (A386/ア) 口絵 (カラー写真)、p 148、149
昔の年中行事について知りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・①の第四節「年中行事」の項では、昔の年中行事について季節ごとに記載されており、かつて小牧市でどのような年中行事が行われていたのかを窺い知ることができる。 ・②には、小牧市内の各地域での昔の年中行事が記載されている。 ・③は、小牧市の篠岡ほか東海・中部地方など各地の年中行事について調査したものである。 ・また、近隣地域についての資料は、④「春日井の年中行事」、⑤「尾西の年中行事」などがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧市史 本文編 (AK261/コマ) p691～706 ②小牧の民俗 (小牧叢書 7) (AK380/コマ) ③新篠岡百話 第1集 (AK080/シ/-1) ④春日井の年中行事 (A386/カス) ⑤尾西の年中行事 (A386/ヒ)
「吉五郎伝説」の他にも狐の伝説はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「小牧市記事索引」で「キツネ…」の項目を確認。 ①に吉五郎を含む狐の伝説が掲載されている。 ・郷土資料の中から検索(キーワード「伝説」)し、ヒットしたものの中から小牧・東海・愛知をピックアップし調査。②p33～39「尾張野狐銘々伝」の項に、尾張地方の狐の伝説が掲載されており、p35には、岐阜の南濃に伝わる「おちょぼ様」という狐が元は小牧に住んでいたと書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧のむかしむかし (小牧叢書 11) (AK388/コマ) ②郷土伝説 12話 (A388/イタ) p 33～p39
小牧山の植物について知りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「小牧」and「植物」で検索し、ヒットしたものから該当ページを確認。①及び②に小牧山の植物について記載あり。 ・②以外の「小牧市史」も調査したところ、③及び④にも記載があることが判る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧の植物誌 (AK472/コマ) p9～10 ②小牧市史 資料編 1 文化財編 (AK261/コマ) p381

	<p>・棚のブラウジングで見つけた⑤は、小牧山の植物について詳細が記載されており、植生分布図、植物目録、白黒写真なども確認することができる。</p>	<p>③小牧市史現代編(AK261/コ)p466～468</p> <p>④小牧市史本文編(AK261/コマ)p25～27</p> <p>⑤小牧山の自然(AK462/コマ)p10～40</p>
<p>大山川の蛍について知りたい。</p>	<p>・①は大山川や大山川周辺の地理的な事柄が記載されており、蛍を守る活動のコラムが掲載されている。</p> <p>・②はp37 から「源氏ボタル復活のあゆみ」という特集記事が掲載されている。</p>	<p>①小牧の川・用水(小牧叢書19)(AK517/コ)p23～36</p> <p>②大山川の自然に親しむ会創立5周年(AK468/オ)p37～41</p>
<p>「入鹿切れ」について知りたい。</p>	<p>・「入鹿切れ」とは明治元年に入鹿池の堤防が切れて発生した大災害である。</p> <p>・①は「入鹿切れ」の概略が記載されている。</p> <p>・②は入鹿切れの被害や逸話について記載がある。明治38年頃の入鹿池堤防の様子が分かる写真が掲載されている。</p> <p>・入鹿池築造から入鹿切れにいたるまでの経緯は③及び④に詳しい。</p>	<p>①小牧の川・用水(小牧叢書19)(AK517/コ)p64～65</p> <p>②小牧の産業史話(小牧叢書14)(AK602/コ)p28～33</p> <p>③入鹿池の築造と「入鹿切れ供養地蔵」について(A271/フ)</p> <p>④入鹿池築堤と明治の大洪水(AK271/コ)</p>

<p>ピーチライナー (桃花台線)について調べたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーチライナーとは、桃花台ニュータウンと小牧駅を結ぶ新交通システム桃花台線の愛称である。 ①では簡潔な事業の説明がある。 ・この事業は愛知県を主体に小牧市も出資して進められ、計画から建設、開業までの詳細な記録には②がある。 ・平成3年に開業したが収支が成り立たず、平成18年10月1日をもって廃線となった。廃止に至る経過についての資料は少ないが、小牧市の発行する③に記録がある。また、④には「桃花台線の存廃判断について」市民向けの資料が添付されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧市史 現代編(AK261/コ) p94～96 ②桃花台線建設誌(AK681/ア) ③市政概要 平成18年版(AK318/コ) p157 廃止の経緯 ④広報こまき 平成18年4月15日号(AK318/コ)
<p>「亜炭」(あたん)とは何ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「亜炭」とはかつて「川木」(かわき)と呼ばれ燃料として用いられたものである。小牧では野口や池之内など篠岡地区に鉱山があり、採掘されていた。最初に発見したのは井上弥兵衛氏で、掘られた亜炭は、小牧や岩倉などへ販売された。その様子は①に詳しい。 ・昭和45年当時の調査記録が②にまとめられている。 ・その他③、④にも記載がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧の産業史話(小牧叢書14)(AK602/コ)p11～19「亜炭の採掘」 ②篠岡百話(第二集)合本(AK080/シ)p152～159 ③篠岡村誌(AK261/シ)p81～82 ④小牧市史 本文編(AK261/コマ)p504～505
<p>小牧の養蚕業について知りたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧では明治・大正期から昭和初期にかけて、養蚕業が大変盛んであった。 ・現在の図書館本館も養蚕の技術指導所の跡地に建っている。 ・養蚕業の始まりと生産についての説明は①と②が詳しい。その他③、④にも記載され、かつては人々の暮らしと養蚕が密接に結びついていたことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小牧の文化財 第11集(小牧の米作・麦作と養蚕)(AK709/コ/-11) p37～56 ②小牧の産業史話2(小牧叢

		<p>書 15) (AK602/コ)p1~9</p> <p>③小牧市史 本文編(AK261/コマ)p455~457、474~476</p> <p>④小牧の民俗 (小牧叢書 7) (AK380/コマ)p 59~60</p>
<p>小牧の最近の産業について知りたい。</p>	<p>・「小牧市史 本文編」以後については「小牧市史現代編」①の冒頭の「市勢 2005」によって産業動向を概観できる。本文第二編の第一章で昭和期を、第二章で平成期について詳しく述べている。</p> <p>・さらに最近の資料として②は総合的な統計だが各項目を何年か分比較することで、ある程度の産業の推移を知ることができる。</p> <p>・その他③や④も目的によっては役に立つ。</p>	<p>①小牧市史 現代編(AK261/コ)p3~12</p> <p>②小牧市統計年鑑(AK356/コ)※年版</p> <p>③愛知県統計年鑑(A350/ア)※年版</p> <p>④民力(R3)※最新版</p>
<p>「名古屋コーチン」と小牧はどのような関係があるのですか。</p>	<p>・養鶏、産業に関することなので、まず①のp3~10を参照。</p> <p>名古屋コーチンの生みの親は尾張藩の元士族、海部壮平・正秀兄弟である。兄壮平が明治5年に池之内に移住、桑名町で養鶏を行っていた弟正秀の奨めもあり、明治10年前後に養鶏を開始した。明治15年頃中国産九斤(バフコーチン)と地鶏を交配し改良繁殖に努め、名古屋コーチンを作り出した。</p> <p>よって、小牧市は「名古屋コーチン発祥の地」とされている。</p> <p>・また、他の資料としては②、③にも名古屋コーチンの由来が書かれている。</p>	<p>①小牧の産業史話(小牧叢書14)(AK602/コ)p3~10</p> <p>②名古屋コーチン作出物語(AK646/イ)</p> <p>③小牧発祥!!名古屋コーチン(AK596/コ)</p>

<p>「小牧焼」について知りたい。</p>	<p>・「小牧市記事索引」より「小牧焼」の項目を参照。 ①に起源から衰退までの解説あり。また、②に作品の写真あり。 ・①の資料に参考資料として挙げられていた③を参照。さらに詳細な記述と作品写真・解説あり。</p> <p>起源は明治時代後期。明治 38 年頃に小牧出身である斎藤圀次郎と、彼の“小牧に焼物の窯を設けよう”という提案に賛同した資産家、穂積伊左衛門らにより小牧宮前の辺りに窯が設けられたのが始まりである。明治 39 年頃、盛んに「小牧名物小牧焼」として宣伝・製造されるが、日露戦争後の不景気、明治 42 年の江濃地震の影響により衰微、製造中止となった。</p> <p>ご飯茶碗・皿・鉢などの日用陶器類があるが、圀次郎自身は実用品よりも美術品として製作を行った。</p>	<p>①小牧の産業史話(小牧叢書 14)(AK602/コ)p 72~78 ②小牧のやきもの展(AK751/ヒ) ③小牧の茶の湯と忌辰録(AK280/ヒ)口絵(白黒写真)、p 10~44</p>
-----------------------	---	--